

# 妖怪ずらり、幽霊も出た



これらの妖怪・幽霊・絵巻物は、近くで掘をめぐらす旧家、弥惣治家の当主・藪崎恒雄氏が収集し、弥惣治家先祖代々の菩提を弔うために法林寺に寄贈されたものでございます。妖怪図80枚、また大般若経10巻もあるそうでございます。

その数々に触れ、幽霊にも親しめば、この世は天国かも

旧盆のある日の昼下がりでございませう。銀杏の巨樹で有名な名戸ヶ谷の法林寺の本堂には、妖怪、幽霊が集まり、背筋にひんやりとしたものを感じる、あの世の風が吹いているようございませう。

さりとして、須弥壇に、火焰光背に覆われ、鈷柄剣を持ち、はつたとにらむご本尊の不動明王様がおられますゆえ、妖怪・幽霊どもも手も足も出ないはずでございます。

私めも、不動様に、賽銭を上げ、手を合わせ、さて、妖怪どもに目を向けた次第でございます。



妖怪どもは数十、いずれもガラス付きの額に守られ、広間の高めに居並んでおりますゆえ、写真撮りが難儀でございます。

左右には畳の間があり、そこも占拠されており、入るためには幽霊の掛け軸と対面しなければなりません。うらめしや、カメラを向けてピカッと一閃、そのまま走り込んだのでございます。

背中にどつと冷たい風！ 大きなクーラーの脅かしでございます。慣れてしまえば、ういヤツじやのう。広間の卓に並べられた地獄絵巻には、鬼の責め苦におのいた次第でございます。



つむじ風の中において手足を切りつけるかまいたち、モグラを食うわいら、魚釣りに行くど追いかけてくる牛鬼など、さまざまな妖怪でございます。右の写真は上から「目ひとつ坊」、川獺（かわね）（かろうその精霊、つまり嘘の精霊とか。それに犬神さま。あな恐ろしや。人はいかにして、かかる妖怪を作り出したのでございませうか。性善・性悪という人の心を試し、教育するためでございます）か。

不動明王様、と本堂を見あげれば、はつたとにらみ、すべて嘘八百の絵にすぎぬ、と。